

リスのサッカーチーム 西平 あかね

五匹のリスの兄弟が、林の中へ栗拾いに行きました。
「大きい栗を見つけたぞー」
お兄ちゃんリスが言いました。
「私のは小さいけど、きつと甘い栗よ」
大きいお姉さんリスが言いました。
「ぼくの栗は、つやつやしている」



大きいお兄さんリスが言うのと、
「私なんか、もう三つも拾ったもん」
お姉ちゃんリスが言いました。

みんなが自分の栗を自慢しあっていると、
「ほら見て！ この栗、ぷっくりおいしそうだよ」
小さいすえつこリスも、きれいな栗を見つけてきました。
「どれどれ：：軽いぞ」
お兄ちゃんリスが言いました。
「これは中が空っぽだよ」
大きいお兄さんリスも言いました。
「あら、残念」
お姉ちゃんリスが言いました。
「こんどから、重いのを拾いなさいね」
大きいお姉さんリスも言いました。
「ちえつ。せつかく、いい栗を見つけたと思ったのに」
すえつこリスは悔しくて、空っぽ栗をぽーんと蹴っ飛ばしました。栗はぐーんと飛んで、ころころ転がりました。
「うわあ、おもしろい！」
「ボールにぴったりの栗だぞ」
「いい栗を見つけたね」



お姉さんお兄さんたちにほめられて、すえつこリスはうれしくなりました。転がる栗を追いかけて、ぼんと蹴り上げ、尻尾で受け止めてみせました。
「すごい。サッカー選手みたい」
みんなは集めた栗を置いて、空っぽ栗ボールでサッカーをして遊ぶことにしました。
「ぼくたち五匹だから、あと少し誰かが来てくれるといいのになあー」
そこへ、お父さんリスとおじいさんリスと、おばあさんリスが、やってきました。
「栗拾いは、どうした」
と、おじいさんリスが言いましたが、
「サッカーなら、得意よ」
と、おばあさんリスが言ったので、大人のリスも一緒にサッカーをすることになりました。
「ピーツ、始め！」
空っぽ栗ボールを蹴り合って、みんなは、林を駆け回ります。お父さんリスは、すぐに疲れてハーハー息をしました。
お兄ちゃんリスは、遠くまでボールを蹴飛ばせました。お姉ちゃんリスは、ボールのところまで速く走れました。大きいお兄さんリスと大きいお姉さんリスが、うまくボールを転がしました。

いつの間にか、お母さんリスとおばさんリスも、仲間に加わっていました。おばさんリスは赤ちゃんリスを、おんぶしているのので、ボールが飛んで来ると、走って逃げました。赤ちゃんリスは喜んでキーキー笑いました。みんなリスらしく、すばやく動き回りました。
でもやつぱり、小さいすえつこリスが、一番すばしっこくて、上手でした。



夕方になったので、みんなは栗を持って家に帰りました。
「ああ、くたびれた」
「ああ、お腹へった」
「みんな上手だったな」
「ぼくたち、リスのサッカーチームだね」
そして、お風呂に入って、栗シチューと、栗ステーキを晩ご飯に食べて、ぐっすりと眠りました。



(おしまい)